



第30号

# みせん

瀬戸内海国立公園  
宮島地区パーク  
ボランティアの会

発行日  
平成19年12月1日

## おかげさまで 30号

### 発刊30号記念特集

(P2~5)

記事に見るPVの歩み  
宮島ルネッサンス 岡崎 環  
会員意識調査アンケート

- P6 入浜汽水化への取り組み
- P7 入浜観察会
- P8 JPR活動支援
- P9 おおのベニマンサク観察会
- P10 紅葉谷公園補修、清掃
- P11 JICA研修、編集後記



### 入浜にボラが戻った！

入浜海岸から100㍍の所に湿原があり、ミヤジマトンボなど汽水に棲む貴重な昆虫や植物が生存していました。

しかし最近の度重なる台風などで湿原は海砂で埋め尽くされ、それらの生き物は絶滅の恐れが生じています。

当会では管理当局の特別許可を得て、これらの生物が棲める以前の湿原に戻すことを目的に数回事前調査を実施した後、満潮時に海水が浸入できる大規模な工事に挑戦しました。

その結果、満潮になると潮水が湿原に向かって流れ込み、汽水化に成功し、やがてハ

ゼや小魚などの出入りが始まっていました。

10月28日の入浜自然観察の時、前夜入ったのかどうか定かではありませんが湿原から深さ約10cmの水路を通って、海に帰ろうとする「ボラ」の大群に出会いました。（写真、右下）銀白色に輝く腹部を見せるボラのショータイムに参加者一同感激の至りでした。

（文・写真） 中道 勉

※入浜、汽水化の取り組みについては  
本号P6、7に詳細記事

# みせん 30号 記事からみたPVの歩み

**創刊号** 2,000年9月発行

6/3 PVの会設立総会



設立総会出席者

**第2号** 2000年12月発行

JPR支援活動 8/5 包ヶ浦

9/9~10 大久野島

これより毎年夏から秋にかけて実施

10/15 第1回自然観察会

秋の弥山ウォッチング 講師 金井塚 努

**第3号** 01年3月発行

11/25 研修会「軍と宮島」講師 岡崎 環  
講話のあと岡崎先生の案内で鷹ノ巣砲台跡を探訪。その後毎年砲台跡の清掃、整備を続けている（右段に岡崎さんの寄稿文）



鷹ノ巣砲台跡探訪

1/13 弥山史跡巡りと登山道清掃

観察部会と環境整備部会の合同行事

## 宮島のルネッサンス

岡崎 環

もう10年近く前になるだろうか、公民館の講座「宮島ルネサンス」を開催した。1月～3月までの厳冬期、従来あまり知られていない鷹ノ巣や室浜にある砲台跡、弥山本堂脇の「錫杖の梅」などを見て歩く企画である。砲台跡を以前調査した時は、崩壊があるものの施設跡は、ほぼ原形を留め、軍都広島と呉鎮守府を擁する広島湾の入口に位置する宮島の近代史を語るに欠かせないものである。



講座のために、十数年ぶりに下見調査に砲台跡に行ったが、導入路はシダに覆われ、砲座周辺には樹木が繁茂して荒れ放題、とても近寄れる状態ではない。通路確保のために許可を得、エンジン付きの草刈り機でシダを刈り込み、鉈で小枝を切り払い、道だけは人が通れるようにした。

当日の参加者に砲台巡り、台座の他に砲側庫、伝声管、観測所など一通り案内したが、平地は立木をかいくぐり、急斜面は、小枝に捕まりながら、足を滑らせないように登る。この時は、図面に出ている他の施設はシダや雑木に覆われ確認できなかった。

砲台からの帰り道、参加者が一様に宮島にある、こんな施設はぜひ多くの人に見てもらいたい、との感想を話していました。

次の年も砲台見学を企画したが周りはすっかり変わっているのに驚いた。導入路や登り道を歩きやすいようになっているのではないか。聞けば、第1回目の参加者の中に結成されたばかりのパークボランティアの会員がおられ、その人たちによって道が整備されたという。

それから毎年PVの会によって砲台整備がされるようになった。そして見つけられなかつた司令所などの施設も見つかった。瀬戸内海国立公園・宮島は、皆さん之力でかつての

姿を甦らせながら、確実に次の時代に受け継がれている。

ルネサンスは文芸復興といわれ、古典を再評価する中から新しい空気が吹き込まれ近代の文化が創世した。パークボランティアの会から、宮島のルネサンスが生まれてきている。

#### ※岡崎 環さん

平成12年11月研修会当時は杉の浦公民館  
現在廿日市市教育委員会・文化課長

#### 第5号 01年9月発行

##### 5/27 初めての公募観察会

一般参加者23人で紅葉谷→頂上→大聖院コースで実施、これ以降毎年2~4回実施  
(別表 今までの公募観察会実施状況)

##### 8/5 自然公園クリーンデイ

この時から毎年8月第1日曜に行われる宮島町内清掃に参加

#### 第6号 01年12月発行

宮島の自然保護と利用促進を目的に「みどりの基金」を利用して啓発用パンフレットを作成しました。

- 1、弥山登山ガイドブック(弥山史跡巡り)
- 2、シカ保護(シカを救うのはわたしたち)
- 3、自然観察会テキスト(弥山原生林植物)



02/1 公募観察会・弥山史跡

#### 第9号 02年9月発行

##### 5/26 田中先生による海藻観察会

7/6 宮島消防署職員による普通救命講習

#### 第10号 02年12月発行

9/21~22 大久野島で3地区PV交流会  
「みせん」創刊2周年アンケート実施

#### 第11号 03年3月発行

1/25 コバンモチの樹皮保護ネット張り

年月	観察会	観察ルート	一般参加者数
01/5	弥山自然観察会	紅葉谷ルート→弥山頂上	23
02/1	弥山史跡巡り	大聖院ルート	28
02/3	弥山植物観察	大元→大聖院ルート	25
02/11	初冬の植物観察	大聖院ルート→紅葉谷	31
02/12	歴史遺産観察会	宮島桟橋→大聖院	10
03/10	歴史と文化探訪	大聖院ルート→弥山頂上巡り	19
03/11	初冬の植物観察	紅葉谷ルート→弥山本堂	37
04/10	歴史、文化探訪	宮島桟橋→大聖院→多宝塔	28
04/11	紅葉の紅葉谷植物	紅葉谷ルート→弥山本堂	35
05/4	春の宮島植物	紅葉谷→博打尾→包ヶ浦	66
05/10	歴史と文化探訪	山辺の古径→紅葉谷	10
05/11	秋の植物観察	大元公園→弥山本堂	40
06/2	鷹ノ巣山観察会	包ヶ浦→高砲台跡	79
06/5	新緑の植物観察	大元→室浜→広大植物実験所	49
06/10	鷹ノ巣の自然と歴史	包ヶ浦→鷹ノ巣高砲台跡	24
06/11	宮島の歴史と文化	山辺の古径→大元公園	11
07/3	早春の植物観察	大元公園→弥山本堂	14

( 4 )

第 12 号 03 年 6 月

3/4 樹木名板の取り付け →



第 13 号 03 年 9 月

6/8 宮島で初の探鳥会

6/14 三高砲台跡を探訪

第 14 号 03 年 12 月

9/27~28 宮島で PV3 地区交流会

10/30 JICA の研修会

第 15 号 04 年 3 月発行

1/24 弥山登山道の補修



補修作業参加者

2/11, 2/21 岩船岳登山、コバンモチ保護網の点検、この時から岩船岳登山が恒例行事になる

第 17 号 04 年 9 月

弥山町石しらべの纏め、

18 号に続編

19 号に崖下で見つかった町石の引き上げ →

6/20 おおの自然観察の森観察会

海岸植物群落調査



第 18 号 04 年 12 月

9 月 6 日の台風 18 号で宮島に甚大な被害  
行事予定を変更して倒木・折枝片付け、清掃などの緊急災害復旧支援活動

9/20 大元公園、包ヶ浦

9/23 大聖院登山道、10/3 包ヶ浦

みせん

9/21 付中国新聞に復旧支援活動の様子が大きく取り上げられ掲載された。

第 20 号 05 年 6 月発行

2/26~27 倉敷、鷺羽山で PV3 地区交流会

3/27 極楽寺山での観察会



倉敷交流会出席者

第 21 号 05 年 9 月発行

PV5 年間の歩み特集

6/17 岩国城山観察会

第 22 号 05 年 12 月発行

9 月 6 日の土石流被害に復旧支援活動



泥土の除去作業

第 23 号 06 年 3 月発行

12/4 向宇品観察会

2/5 鷹ノ巣公募観察会

に一般参加者 79 人

PV会旗制定 →



第 24 号 06 年 6 月発行

3/13 ミヤジマトンボ生息地の整備、清掃

5/14 入浜海岸自然調査

**第 25 号** 06 年 9 月発行

6/10 阿多田島を探訪  
町石特集冊子を刊行 A4 28P

**第 26 号** 06 年 12 月発行

10/7 海岸清掃大作戦 腰細浦・入浜



**第 27 号** 07 年 3 月発行

12/2 研修会「すぐに役立つ応急手当」  
広島日赤 山田指導員

**第 28 号** 07 年 6 月発行

4 月 3 年ぶり 19 人新入会

号数	写真タイトル	投稿者
2	ミヤジマママコナ	木下 三郎*
4	水族館のペンギン	横山 忠司
5	ミヤジマシモツケ	池下 宏
6	休暇村大久野島	松尾 健司
7	錫杖梅	中道 勉
8	イワタイゲキ	池下 宏
9	宮島管絃祭	足立 清
10	里山の秋	山根 浩二*
11	弥山山頂初日の出	岩崎 義一
12	弥山のヤマグルマ	新川 博
13	宮島の水中花火大会	中道 勉
14	葉っぱの思い	山根 浩二
15	Spring has come	中道 勉
16	おむすび岩	足立 清
17	ハンゲショウ	中道 勉
18	ヤマモガシ	前田 勲
19	バイカオウレン	森川 範吾
20	クロキ	山根 浩二
21	シロバナトサムラサキ	新川 博
22	ベニマンサク	森川 範吾
23	ツチトリモチ	六重部 篤志
24	カヤラン	池下 宏
25	サツマニシキ	前田 勲
26	ミヤジマママコナ	池下 宏
27	どんぐりのお雛さん	小方 翠彬
28	コウヤマキ「高野楓」	中道 勉
29	御鳥喰式	中道 勉

※ 投稿者 \* 印は退会者

## 会員意識調査アンケート

10 月に実施したアンケートの集計抜粋

### 1、交通手段、活動日について

- ①交通手段 徒歩・自転車 (8) 車 (14)  
J R ・ 広電 (27)
- ②所要時間 30 分以内 (15) 1 時間以内 (22) 2 時間以内 (9) 2 時間以上 (2)
- ③都合に良い活動日 週末 (25) 平日 (11)  
いつでも良い (12)

### 2、関心の高い活動

- 観察会（植物）(22) 観察会（歴史・文化）(21) 鷹ノ巣砲台整備 (20) 海岸自然調査 (14) 入浜の汽水化 (14) 紅葉谷清掃 (12) 海岸清掃 (11) 樹木名板取付け (8) 会員研修会 (6) 災害時の緊急支援活動 (5) コバンモチ点検・岩船岳登山 (5)  
(以下略)

(配布 59 人 回答 49 人 回収率 83%)

### 3、活動行事の数

多い (6) 適当 (42) 少ない (1)

### 4、他のボランティア活動

している (29) していない (19)

### 5、「みせん」で関心の高い記事

- 観察部会関係 (30) 表紙写真と説明 (26)
  - 特別行事 (25) 環境整備部会関係 (22)
  - 会員の投稿記事 (21) 新入会者の自己紹介 (12) 会員の行事参加状況 (11)
- (以下略)

※記述項目に多数の会員から貴重な提言、ご意見をいただきました。これらを個別に整理し、今後関係の皆さんと相談しながら、P V の会運営に役立てるようにならうとしています。ご協力有難うございました。

(足立)

# 入浜池 汽水化への取り組み

厳しい暑さの続く、9月14・15日の2日間、淡水化した入浜池を以前の汽水池に戻すため、水路の溝堀作業を会員延べ29人と建設業者の協力を得て実施し、大潮の満潮時には海水が入ってくるようになりました。

(末原 義秋)

(作業参加会員)

両日参加者 井上 小川 小林(み)島

末原 村上

9月14日参加者 坂本 新川 中道 中本  
平田 平山 弁田 森

9月15日参加者 足立 岩崎 川崎 小林  
富田 野呂田 前田(正) 松田 丸平

この作業は、入浜池から海までの約150mの水路が台風による土砂の堆積で海水が入らなくなつたため、淡水化した池をミヤジマトンボやシバナ等の野生貴重動植物が生息できるように整備するもので、土地所有者の広島森林管理署の承諾及び自然公園法、文化財保護法、森林法の届出、許可を得てセブン・イレブンみどりの基金助成金により行いました。

作業は、厳しい残暑のなか汗だくの作業となり、建設機械で土砂の除去や大型土のう(1トン土のう)38個を築き、我々会員は重機が入らない箇所約30mの溝堀を行い、道路下の暗渠内の砂をスコップと鋤簾での掻き出し、土のうや丸太で土止めを築いての水路作りと海岸の溝堀と清掃を行いました。



参加会員の溝堀作業

9月末の大潮の満潮時に海水が入るまでは、心配と不安でいっぱいでしたが、海水が入るのを確認した時には安堵するとともに皆様の協力に感謝しました。その後も、大潮の満潮時に井上会員が状況確認に行かれ海水の確認

や水路の保全作業をされています。

## その後の海水流入状況

井上 軍



海水の流入始め

9月28日(金) 満潮10時29分(一番潮位の高い397) この日は強風と高波の好条件も重なり入浜池に多量に海水が流入したのを確認すると共に感激しました。

9月29日(土) 満潮11時11分(潮位395) 崩れているところの溝堀作業を行った、この日は池の手前数メートルで海水がストップ、入浜池に流入せず大変残念な思いをしました。

10月27日(土) 約一ヶ月ぶりの観察、満潮10時13分(潮位397) 太平洋側の台風の影響により入浜は強風と高波でした、おかげで入浜池に多量の海水流入を確認した、池の水位は9月29日より低くなっている。

10月28日(日) 自主観察会、溝堀作業と水生生物採集、満潮10時58分(潮位392) 晴天、11時20分に入浜池に海水流入、12時流入止まる、皆で入浜池に海水が流入するのを見られたのは初めてで感激する、その後入浜池より採集した水生生物トンボ数種類・メダカ・エビ・その他の生物を学習した。



満潮時の海水流入

10月29日(月) 満潮 11時43分 (潮位376) 海上より船で流入口を見る、11時00分海水が川へ流入したのを確認、風強く波は高かった、入浜池の流入は未確認。

10月30日(火) 満潮 12時32分 (潮位354) に現地を確認したが海からの流入口に海水入らず、さらに20程高い潮位の370以上でないと流入しないのではないかと推測した、昨日は入浜池に流入した形跡無し。

今までの作業・調査・観察から今後どう取り組むのか簡単にまとめてみました。

1、入浜池の水位が減になっている、山からの水を池に増水できないか。

10月28日に山(この谷は深い谷である)からの川の水を調査して見るとほとんど流れていない、雨がほとんど降らない、大雨が降るのを期待するしかない。

2、海からの海水の流入口(取り入れ口)を安定した流入口にしなければならない。現在の流入口場所・位置がこれでよいか検討が必要。

には忙しそうにトンボたちが水面をたたいていて、その小さな輪を見ながら、豊かな自然を満喫しました。

今日も穏やかな海。う~ん・・また水路の手直しをして満潮時を待ちました。

10時過ぎ、みんなの作業のおかげで順調に海水が入り始め、満潮時には池に流れ込むのがはっきり見えました。約1時間、入出を確認しました。良かった!!

池の生態は、松田さんが胴長を着用し、トンボを中心に調べてくださいました。

(舛田 祐子)

## ＜入浜池の生態調査結果＞

松田 賢

11月14日午後補足調査を実施。

### ◎結果概要

- ・池の水位は前回(7月)よりかなり低く、流入は見られなかった。
- ・海水流入が11:20から40分間確認された。
- ・ヒトモトススキは、多数の結実が見られた。
- ・水生動物の採集は、水辺～水深0.5m程度の池底で行った。水位が低かったため採集範囲は前回よりも広くとることができた。
- ・池中央部の底質は軟泥で厚く堆積しており、踏み込むと膝上くらいまで簡単に沈むところもあった。
- ・トンボ類は、夏季以降に出現する種、成熟後の秋季に水域に飛来する種を中心に10種が確認された。この中では、海岸近くの池などにみられるマイコアカネ、タイリクアカネが多いのが特徴的であった。7,9(未整理), 10・11月あわせて19種前後に。生物種名は上記2種の他に以下のとおり。

アオモンイトトンボ オオアオイトトンボ  
タイワンウチワヤンマ オオヤマトンボ

オオシオカラトンボ リスアカネ ノシメ  
トンボ ホソミオツネントンボ メダカ(多),  
チヂブ(多), コイ, ボラ科, ヌマエビ,  
・池周囲の草地で、マツムシ, ツヅレサセコ  
オロギ, クチキコオロギの声(いずれも11/14  
夜間)

- ・塩分濃度は、1.8% (7月は0.006%)
- ・ハイイロゲンゴロウ、コマツモムシを海岸近くの流水だまりで確認。ヤゴはいない。

## 入浜での自然観察

日 時 10月28日(日) 9:00~15:00

参加者 井上 岩崎 小川 川崎 北野 島

末原 中道 中本 舛田 松田 村上

横路 田中自然保護官

穏やかな秋の青い空の下、池の向こうの山々はハゼノキが真っ赤に紅葉し、澄み切った空気に鳥の声が沢山聞こえてきました。池

# 干潟の生き物 生態学習

## 子どもパークレンジャー（第2・3回）



日程・テーマ	スタッフ・PV参加者	講師・JPR
<b>第2回</b> (8/27・28 包ヶ浦自然公園・水族館前干潟) 海辺の自然を科学的、感覚的に体験 学んだことから海辺の生き物に関する体験型展示をつくる	事務局：人間科学研究所 4名 グループカウンセラー：5名 環境省：西 R、玉谷 R、藤本 AR PV：8/27 (小川 五石 野呂田 夕田)	清水則雄（広大総合博物館） 大丸秀士（広島市立安佐動物公園） JPR 30名
<b>第3回</b> (9/15 水族館前干潟・宮島水族館) 海辺の生物の展示を通じて、おもしろさを一般市民に伝える	事務局：人間科学研究所 3名 グループカウンセラー：5名 環境省（西 R、藤本 AR） PV（五石 小川* 富田* 注：*印は展示のみ見学）	大丸秀士さん JPR 24名

第2回の活動では鬼ごっこを取り入れたゲームを通してアカテガニの一生～アカテガニは山の棲家から車道を横断して海岸にたどり着き、たくさんの卵を産みますが立派な蟹になるまでに殆どが他の生き物に食べられてしまうこと等を学び、夜は実際にアカテガニの産卵を観察しました。またハンズオン展示についてゲストの大丸さんの講義を受け、各班が干潟の生き物を一つ選んで展示に備えての準備をしました。

第3回、午前中は展示準備、午後1時から2時半まで展示発表で、各班の発表はアカテガニ、マメコブシガニ、アラムシロ、ナマコ&ヒトデ、アナジャコです。実際に生物をテー



ブル上に展示、触れたり、他の生き物と比較したり クイズ、紙芝居など体験しながら学べるよう工夫を凝らした展示です。多くの一般入場者と子どもたちの家族が展示場を訪れていました。次はこの展示場を訪問したパークボランティア富田会員の感想です。

「子どもたちは友だちの気持ちが解るように蟹達のことを説明してくれました。オスのハサミ振りは雌にアピールしている踊りで、マメコブシガニは前にも進める自由さがあり、アナジャコは穴を掘って進む忍者のような奴だよ。カニのハサミは捕まえた獲物は離さない、指を挟まれたら痛いよ・・・と得意そうに水槽を覗く子。質問にもマメ学者たちはきちんと答え、干潟の様子や捕らえた時は一杯穴を掘ったよ、と目を輝かせて教えてくれた。終了後は展示した生き物を海に戻してやらなくてはと誇らしげな笑顔で話していました。」



(小川 加代)

## ハチクマの渡り観察会

日時 9月20日(木) 8:30~14:00

参加者 小川 川崎 近藤 富田 中道  
舛田

残暑の厳しい日でしたが、昨年のようにハチクマが勢いよく飛びたつ姿を見ようとなりー近藤さんについて待機していたのですが、「錫杖の梅」を見て、中道さんに説明を受けていた間に飛び立ってしまいました。

近藤さんが13羽確認したそうです。他の人は誰も見ていません。(舛田 祐子)



おおの観察会参加者



## おおの自然観察の森

### ベニマンサク観察会

日時 10月23日(火) 10:00~14:00

参加者 小川 奥田 小林(み) 佐渡 富田  
野呂田 文理 舛田 森 森川

(リーダー森川 インプリ小川 野呂田)

今年のベニマンサクは色付きが少し遅れていて、見ごろはもう少し後が良いとのことでしたが、私は初めてなので見事に色付いているように見えました。

午後からのゲームも楽しかったです。葉っぱのジャンケン、品物探しなどゲームを通して自然を知ることが出来るので大いに参考になりました。最後に参加者の今日の思いを短冊に書いたのも良かったです。企画してくださった幹事さん有難うございました。

(奥田 克江)

○ 今日の思いを短冊に・・

お お! 自然はすばらしい  
お いろ直しのベニマンサク目をみはる  
の どかな ひととき せせらぎの音  
し ろい雲 気持ちよさそに流れてる  
ぜ んぶ忘れて ベニマンサク  
ん 一今日のメンバーのレベルは高い  
か らりと晴れた青空の下、

すばらしい自然観察でした  
ん きまり来年もアケボノソウ  
さ わやかな風に木漏れ日ゆれる  
紅燃ゆるマンサクの葉  
つ たの葉にウリハダカエデに紅マンサクも  
若人の赤き唇 燃える秋  
の に出でて秋の深みを知る観察会  
も う少し、いやもっともっと勉強します  
り りりと虫の音、喚声とともに秋送る

### 海岸調査への協力

日時 11月10日(土) 11:00~17:00

場所 大砂利海岸

参加者 岩崎 奥田 小川 五石 小林(み)  
富田 中道 野呂田 舛田  
環境省 藤本AR

広島県主催の瀬戸内海水環境等調査事業への参加要請があり、大砂利海岸へPV9名が参加しました。

当日の参加者は10種類の調査対象生物を含む多種多様な生物の生態を学習し、自然の持つ環境の変化への適応力について考え、本事業が瀬戸内海の環境保全に対して非常に有意義であることを認識しました。

(小川 加代)

( 10 )

みせん

## 樹木名板の点検・保全

日 時 9月 29 日 (土) 9:00~12:00

参加者 足立 池下 井上 岩崎 小川  
川崎 北野 佐伯 島 末原 田中  
中道 名越 平山 前田(正) 弁田  
村上 森川 柳瀬 横路

9月 29 日 20名が参加し、樹木名板取付け保全確認作業を、桟橋～ウグイス道～紅葉谷と大元公園～アセビ歩道～紅葉谷までの二班に分けて行いました。



名板の取替え作業

名板設置後 6年が経過し、取付けた名板の不明、破損、汚損により名板の在庫不足が生じたため、セブンイレブン・みどりの基金助成金により 100枚製作しました。

当日は、台帳と現地の樹木を確認照合しながら、名板がついてない樹木への新規取付け 72本、破損及び汚損した名板の取替 34本の作業を実施しました。

(末原 義秋)

みせん (31号)

発行予定

発行日  
平20年3月1日  
原稿締切  
1月末日

## 紅葉谷公園清掃・整備

日 時 10月 20 日 (土) 9:00~12:00

参加者 足立 池田 井上 大成 川崎  
小林(み) 佐伯 渋谷 末原 竹内  
田中 中本 平山 文理 弁田 丸平  
宮崎 村上 柳瀬 矢吹 横路



側溝の土砂除去

今年も紅葉谷公園の清掃、道路の補修を実施しました。会員 21名が参加し、特に散策道の陥没部への土砂埋め込み、階段部へは土のう積み込み、側溝の堆積土砂除去などの作業を行いました。

排水管入口の土砂除去のあと排水管の機能をチェックし、遊歩道の水路が崩壊し砂が溜まっていた箇所は市で土砂の除去と排水管を修復しました。

(末原 義秋)



## 「JICA」の研修生来島

今年もJICA主催の、開発途上国における観光関連省庁の若手行政官を対象に、環境影響ができるだけ配慮しながら観光開発を行うための知識・技能習得「持続可能な地域観光振興」研修が、東広島市を根拠にしながら9月から約2ヶ月間行われた。

そのフィールドワークの一こまとして、10月26日の宮島では、当パークボランティアの会も、伝統的な町並み、紅葉直前の紅葉谷公園、瀬戸内を見下ろす自然探勝歩道そして歴史的な古刹を舞台に、地域に密着した環境ボランティアが「環境保全活動をどのように実践しているか」を紹介しました。

宮島で知合ったこの若き行政官たちが、帰国後日本で得た知見をもとに存分に活躍されることを願っています。

その際にインビューデたくさんの質問を頂きましたが、印象に残ったQ/Aをひとつ。

Q ; 若い人たちのやる気をどのように起こさせますか?

A ; まずは、自分も含めて、自然の不思議さや先人の偉大なる知恵に「感動する(させる)こと」でしょうか

データ 日時 ; 10.26(金) 13:00~16:00

研修員数 ; 12名 (タイ、ラオス、モンゴルなど)

JICA 担当者 ; 岡野氏、浦宗氏 (通訳)

コース ; 商工会館一町屋通り一紅葉谷公園一平松茶屋下一もみじ歩道一大聖院

当会参加者 ; 村上会長、小川幹事

(村上 光春)



### 今までのPV研修会

年月	テーマ	講師
00/11	軍と宮島 (鷹ノ巣砲台跡探訪)	岡崎 環
02/7	普通救命講習	消防署職員
03/12	厳島学講座 (文化財協会主催)	本中 真
04/11	「クマ」との共生	米田 一彦
05/12	気象のあれこれ	大平 真二
06/12	応急手当の方法	山田指導員

### ◇PVの会発足10周年行事◇

PVの会は09年6月に発足満10年となり、記念行事のアイデアを会員の皆様から募集します。詳細は次号以降に掲載します。

### ◇編集後記◇

▼本紙も30号を発行することになり、創刊の時には、とてもこんなに続くとは考えてもいなかっただし、感無量です。会員の皆さんのご協力の賜物だと感謝しています▼アンケートの記述項目に宮島で活動する他のボランティア団体の動向を知りたい、あるいは交流したいという提言が多数ありました。今後何らかの方法でこれらの情報を入手することを考えてみたいと思います(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方  
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎2号館6階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島桟橋2F)